



The 35th Congress of Japan Association for Clinical Engineers

第35回日本臨床工学会

ランチョンセミナー15

Luncheon Seminar 15 (LS15)

日時 2025年 5月18日(日) 11:55~12:55

会場 第8会場 グランキューブ大阪(大阪国際会議場)
10F会議室1001

〒530-0005 大阪府大阪市北区中之島5丁目3-51

医師の働き方改革における タスク・シフト／シェアの最前線

座長 本間 崇 先生

日本臨床工学技士会 理事長／善仁会グループ 相談役

CE業務におけるタスクシフトの 現状と医療DXに向けて～IT・ICTでつなげる医療現場～

演者 五十嵐 茂幸 先生

北陸大学 医療保健学部 医療技術学科 准教授

手術室タスク・シフト／シェアにおける CEの関り方～業務拡大の経緯と今後～

演者 荒木 康幸 先生

済生会熊本病院
統括技師長 兼 臨床工学部門技師長

本セミナーは事前申込制です

詳細は学会ホームページをご確認ください。

<https://www.ace-enterprise.jp/jace2025/>

共催:第35回日本臨床工学会／フクダ電子株式会社

ランチョンセミナー15

Luncheon Seminar 15 (LS15)

CE業務におけるタスクシフトの現状と医療DXに向けて ～IT・ICTでつなげる医療現場～

五十嵐 茂幸

北陸大学 医療保健学部 医療技術学科 准教授

2024年4月に医師の時間外規制が制定され今年で1年が経過した。医療現場においてはタスクシフト/シェアが進められてきている。医師の業務はメディカルスタッフへ、また看護師の業務も他のスタッフへ移行が進められている。ただしタスクシフト/シェアされた業務は、移行されたスタッフのマンパワーも必要とすることから、さらなる業務削減や医療DXの推進が求められている。

そこで病棟等で使用されている生体情報モニタの管理に注目した。日常業務の中でもモニタリングは重要な観察業務となっている。手術後患者や循環器に疾患を持った患者、重症疾患患者のバイタル管理は見過ごすことができない項目も多く、医療安全からの観点でも重要である。これらの生体情報モニタリング業務において、業務支援システムやアラート転送システム等を導入し、ICT化を推進した現状や、今後の医療DXについての取り組みについて報告する。

手術室タスク・シフト/シェアにおけるCEの関わり方 ～業務拡大の経緯と今後～

荒木 康幸

済生会熊本病院 統括技師長 兼 臨床工学部門技師長

当部門は、400床の急性期病院であり、現在52名のCEが在籍している。時代に先駆けて医師のタスクシェアに取り組み、併せて医療情報分野にも積極的にかかわる事で職能組織として院内での存在感を確立してきた。手術室関連での清潔介助業務を開始した2004年当時は医師不足が顕著であり、海外のPA (Physician Assistant) の様な職種が必要と考えられていた時代であった。その2年後の2006年にはスコープオペレーター業務を請け負うこととなり、さらに、後輩達が様々な業務を拡大し、2017年ロボット支援下手術やTAVI時の清潔介助業務、2019年には麻酔アシスタント業務を開始する事になった。それにより当初は、手術室に常駐するCEは2名であったが、現在12名まで増員できた。これらの業務拡大の経緯と、個人的な意見ではあるが今後の展望も述べ、日本体外循環技術医学会の症例登録事業入力におけるフクダ電子急性期情報システムmirrelからの情報抽出の工夫も合わせて報告する。なお、このような業務拡大の是非に関しては時代と共に変化するため、既存の業務を大事にしながら個々が能動的に考える必要がある。